

きずな

No.11

平成 29 年
9 月発行

目次

中島イノベーション推進協議会（柳川市）	1・2
Community House 赤れんが（鞍手町）	3・4
県庁お知らせ掲示板	4

■ 中島イノベーション推進協議会（柳川市）

運営側も楽しむ 息の長い活動を目指して

なかしま
～中島イノベーション推進協議会（柳川市）～



浦会長(左端)ら協議会のメンバー

福岡県南部に位置する詩聖北原白秋を生んだ水郷のまち柳川市。掘割をどんこ舟で巡る「川下り」が有名です。柳川市の中心部から南東に約 5 km、1 級河川矢部川の河口に中島地区があります。港町である同地区の名物は、中島商店街で毎朝開かれる「中島朝市」。江戸時代から続くこの自由市場では、新鮮な有明海の幸や地元産の新鮮な農産物を買うことができます。

最盛期には約 100 店舗が立ち並び、にぎわいを見せていた同商店街。しかし、店主の高齢化や大型スーパーの台頭などにより、現在では 40 店舗ほどに減少し、かつての活気が失われつつあります。

そんな商店街や中島地区を盛り上げようと活動している「中島イノベーション推進協議会」の取組を取材しました。

活動の輪を地域全体に広げたい

平成 28 年に結成された「中島イノベーション推進協議会」は、中島商店会や地元有志、柳川市商工会などで構成されています。現在、協議会が取り組んでいるのが「ワッセ! なかしまプロジェクト」。中島朝市という地域資源を磨き上げ、交流人口と地域消費額を増加させ、かつてのにぎわいを取り戻すことが目的です。「ワッセ!」とは、中島地区最大の夏祭り中島祇園の掛け声。協議会の浦会長は「祭りの掛け声のように活動の輪を地域全体に広げていければ」とプロジェクト名に込めた思いを教えてくださいました。

地域一体となって交流拠点を整備

同プロジェクトで真っ先に取り組んだのが、人が集える交流拠点の整備です。国の地方創生加速化交付金を活用し、商店街にある空き屋を改修。改修にあたっては、地元住民や近隣の高校生らと共に、外壁の解体から盛土、壁塗りなどのワークショップを計6回開催しました。また、室内で使う「ばんこ」と地元で呼ばれる長いすは地元の小学生と共に製作。まさに地域が一体となって改修を進め、無料の休憩スペースの他、キッチンや多目的に利用できる和室などの有料スペースを備えた「交流館 なかしまワッセ!」が2月に完成しました。

港町らしい「海苔」を使った2商品を開発

プロジェクトでは、地元の特産品を使用した中島らしい商品開発にも取り組んでいます。その中で生まれた海苔生産量日本一を誇る有明海の港町という地域の特徴を生かした2つの商品が好評です。地元の中島小学校の児童と商店街にあるパン屋が共同開発した「海苔パン」は、毎週土曜日限定で販売。パン生地には海苔を練

り込み、中に海苔カレーが入った同商品は、毎週完売するほどの人気です。海苔の形を整える工程で出る海苔の粉を使った「海苔石けん」は、商工会女性部との共同開発商品。こちらも肌がしっとりすると好評を得ています。

地域の活性化には時間が必要 継続することが大切

「交流拠点ができて、そこで何か催しをやったからといって、すぐに地域がにぎわうものではありません。どんなに素晴らしい活動をして、地域が活性化するにはそれなりの時間が必要」と浦会長は活動を継続する大切さを訴えます。

協議会の北島さんは「運営側も楽しめる企画を意識しています。そうしないと長続きしませんから」と継続するための工夫を教えてくださいました。

運営側や地域住民、観光客、すべての人が笑顔になれる「ワッセ!なかしまプロジェクト」。今後「ワッセ!ワッセ!」と地域が活性化していく様子が楽しみです。



1



2



3



4

- ①空き家の外壁解体ワークショップには高校生も参加
- ②地元小学生が考案した海苔パン。有明海に生息するむつごろうをイメージ
- ③海苔石けんは女性に好評
- ④ワークショップや活動に協力すると、お土産に中島地区の特徴をイラストにした缶バッジがもらえます。どのイラストにも中島にまつわる物語があるので、全部集めればあなたも中島通です

れんが積みの「目地」のように地域をつなぐ存在に

～ Community House 赤れんが (鞍手町) ～



三宅代表(左から2人目)ら赤れんがのメンバー

福岡県の北部、福岡市と北九州市のほぼ中間に位置する鞍手町。江戸時代中期から石炭産業が栄え、以降近代に至るまで鞍手町を発展させる原動力となってきました。しかし、高齢化社会を迎えた近年では、空き家が増えつつあり、地域のつながりが希薄になってきています。

そんな地域を再び活性化させ、町のすばらしさを町外へ発信しようと立ち上がった地域組織「Community

House 赤れんが」。今回は、その取組を紹介していきます。

地域に寄り添った催しを積極的に開催

平成 28 年に立ち上がった地域組織「Community House 赤れんが」。地域コミュニティの活性化、鞍手町の魅力発信、移住支援をテーマに地元住民 9 人で日々活動しています。

活動拠点としているのは、赤色のれんが塀が目を引く日本家屋です。空き家となっていたものを借り受け、メンバーで協力しながら地方創生加速化交付金を使って改修し、昨年 6 月にお披露目となりました。地域の人から「赤れんが」と呼ばれているこの拠点について、代表の三宅さんは「れんが積みの目地のように地域をつなぐ存在になれば」と思いを語ります。

赤れんがでは、地域の人が気軽に訪れることができるようにと、地域に寄り添った催しを積極的に行っています。具体的には、地域住民とのコミュニケーション昼食会、キッズ英会話教室や健康教室、ヨガ教室などの各種教室の開催です。また、地元の高齢者を対象に毎月 1 回開いているお茶会では、健康体操や脳トレーニングを実施。「皆さんとても楽しみにされていて、開始時間よりも随分早く来られるんです」と副代表の河上さんは、活動への手ごたえを話します。



1

- ①毎月 1 回のお茶会では健康体操を実施
- ②多くの子どもが参加するキッズ英会話教室には外国人講師も遊びに来ます
- ③Mamiさん(左奥)のコンサートに小学生が飛び入り参加
- ④参加者は貴重な高級珈琲生豆の香りを体験



2



3



4

都会のマネではなく 鞍手でしかできないことを少しずつ

9人のメンバーの中に一際若い夫婦がいます。昨年2月に東京都から鞍手町へ移住した播野さん夫婦です。播野さん夫婦は、平成27年度に福岡県が主催した「トライアルワーキングステイ」事業を通じて鞍手町の生活を体験。「地域の人の温かさが決め手だった」とすぐに移住を決心したそうです。現在は、鞍手町シティプロモーションの公認サポーターとしても活動しています。

「僕らみたいに東京からの移住を考えている人は、都会には無い魅力を地方に求めています。地方が都会のマネをする必要はありません。鞍手でしかできないことを少しずつやっていくことが大事」と夫の巧磨さんは鞍手町らしい活動を地道に続ける大切さを語ります。

子どもからお年寄りまで 40人が集った夏祭り

取材で訪れた7月30日は、赤れんがで夏祭りが開催されていました。夏祭りには地元の子どもたちや保護者、お年寄りなど約40人が参加。会場では、日本家屋らしいお座敷でミニコンサートや珈琲焙煎ライブが行われました。

ミニコンサートには、九州出身のシンガーソングライター Mamiさんが登場。幻想的な音楽と優しい歌声で参加者を魅了しました。また、参加した小学生と一緒に人気映画の主題歌を披露し、会場からは大きな拍手が送られていました。

珈琲焙煎ライブでは、世界生産量のわずか1%といわれるインドネシア産の高級珈琲生豆を参加者の目の前で焙煎。普段とは一味違う珈琲の香ばしい香りが漂う中、参加者全員で祈りの音を奏でました。

やる気がある人にチャンス これが赤れんがスタイル

現在、赤れんがは、イベントが無い日は休館となっています。「今後は、毎日何かしらのイベントを実施して、誰もが休館日を気にせず、いつでも気軽に来てもらえるようにしていきたい」と話す代表の三宅さん。「最終的には鞍手を訪れた人が滞在できる拠点になればと密かに考えているんですよ」と最後に今後の展望をこっそり教えてくださいました。

県庁お知らせ掲示板

地域住民の移動手段の 確保への支援事業

～地域コミュニティで繋ぐ生活交通～

本事業は、コミュニティバスの運行や路線バスへの補助など、生活交通の維持確保対策を行っている市町村に対し、広域的な観点から支援するものです。

その中で、市町村が行う地域コミュニティ運送の実証実験経費や車両購入経費に補助を行っています。

※ 地域コミュニティ運送とは、地域コミュニティ又は特定非営利活動法人が運営主体となり、実施する地域住民の乗合運送のことをいう。

交通政策課 092-643-3166

自主防災組織 リーダー研修会について

福岡県では、地域防災の中心となる自主防災組織の活性化を図るため、市町村と連携し組織の中心となるべきリーダーを対象として、防災に関する知識や技術の取得を目的とした自主防災組織リーダー研修会を毎年開催しております。

研修会では、自主防災組織の先進事例の紹介、避難所運営訓練等を実施しております。今年度も日程が決まり次第、県防災HP、市町村等を通じ御案内いたします。

消防防災指導課 092-643-3113